



令和4年12月22日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第30号

私たちと税。税金は必要？

～租税教室を行いました～

12月19日(月)、呉市役所財務部収納課の中村 満美子 様、岩田 朝光 様にお越しいただき、3年生対象に「租税教室」を開催しました。中学生にとって、「税金」という言葉は消費税くらいしか身近ではないかもしれません。しかし、将来、アルバイトをしたり、働いたりすると、「税金」は必ず関わってきます。今回の「租税教室」は、税に関する意義、役割、仕組み等の制度を知ることや、税を納める立場である納税者の権利及び義務を理解して、日本社会の構成員として正しく納税できる国民を育てることを目的に実施しました。

「もしも税金がなかったら」というアニメを鑑賞したり、日本の税負担率と福祉度の解説を聞いたりしたあと、「税金は必要か」という課題でグループワークを行いました。身近な課題だったこともあり、活発に意見を交流していました。

最後に「1億円の重さを体験してみよう」では、1億円のレプリカを実際に持たせていただきました。生徒のみなさんは「こんなに重いのか」「重い！」など言いながら、喜んでいました。翌日の事後学習では「税金の大切さが分かった」「税金がなかったら他にどんなことが起こるのか」などの質問があり、税に関する興味・感心を高めることができました。



ソーシャルスキルトレーニング

～自尊感情の向上を目指して～

本校では、「ソーシャルスキルトレーニング (SST)」を 10 月から毎月 1 回第 3 水曜日、計画的に実施しています。「ソーシャルスキルトレーニング」とは、社会で人と人が関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身に付ける訓練のことを言います。



本校では、次のような目的で行っています。

- ①「自己」と「他者」について多様な見方や考え方を知り、自己を認識し、振り返ることで、今後の学校生活や自己の生き方に活かす。
- ②「集団」におけるルールやマナーなどを学習し、よりよい人間関係を形成し、社会生活を円滑に送ることができる能力を身に付ける。
- ③ソーシャルスキルトレーニングの実施を通して、自分自身や自己の行動等に自信を持ち、自己肯定感を向上させる。

人と関わりながら生きていくために必要なスキルは、様々な経験を通して自然に身に付けると考えられますが、実際には、少子化・核家族化・地域での人間関係の希薄化などにより、自然の発達ではなかなか身に付いていないのが現状です。このスキルを身に付け

No	月	内容
1	10月	自分の性格を知ろう
2	11月	自分の気持ちを知ろう・考えよう
3	12月	イライラとの付き合い方
4	1月	相手の気持ちを読み取ろう
5	2月	相手の気持ちになって考えよう
6	3月	「ごめんなさい」の伝え方

させることで、学校生活に適応したり、良好な人間関係を構築したり、自尊感情を向上させたりすることができます。そして、子どもたちが自分自身を価値ある存在と認め、大切に思う「自尊感情」を感じ取れる「心の居場所づくり」を大切にしていきたいと考えています。12月21日(水)に行った「ソーシャルスキルトレーニング」では、自分の「怒り」について分析したり、イライラしたときの対処方法を考えたりしました。今後も継続し、今後の学校生活や自己の生き方に活かせるスキルを身に付けてほしいと考えています。

